説教20200719フィリピ2：1-11　　　Ⅱ182　127　Ⅱ186

「人間キリスト」

キリストよお越しください。弟子たちの中に立ち、復活の御姿を現されたように、私たちのうちにもおのぞみ下さい。

　イエス・キリストはまことの神であり、まことの人である。という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。キリストが真の神であると同時に真の人であるということは非常に重要です。わたしたちの信仰のあり方を左右します。このことはキリスト二性論として、パウロの時代から今に至る迄、ずっと神学的にも議論され続けていることです。なぜ議論し続けられているかといいますと、時として、例えば人であるキリストばかりを強調して、神様であるキリストを軽視してしまう時代も訪れます。そうなると私たち人間はスーパーマン的な人を、自分の神としてあがめてしまう偶像崇拝におちいりやすくなります。分かりやすく言えば、ニュートン凄い、とかアインシュタイン凄い、彼らは天才だ、などという発想におちいりやすくなってしまいます。このような傾向は今を生きるわたしたちに分からない事ではないと思います。ある凄い業績を上げた人に魅せられてしまって、その人にすべてを委ねますなどということが起きないとも限りません。

　わたしたちが、委ねるべき唯一のお方はイエス様ですが、それはイエス様が正しく、まことの神であり、まことの人であるゆえです。

　今日の聖書箇所では、そのまことの人としてのイエス様が賛美されています。今日の後半の６節から１１節で、獄中のパウロは当時、教会で歌われていた讃美歌を歌っています。パウロは、神であるイエス様が自分を無にしてとことん神に従って人間と同じように死なれた。そしてその従順とへりくだりのゆえに神様がイエス様を復活させ、人間たちを全て一つにされた、ということを、イエス様と共に口ずさんでいるようです。パウロとイエス様とは非常に近い処に居ます。それはイエス様がまことの人間としてパウロと交わられたからに他なりません。今日の説教題としました「人間キリスト」がパウロと交わられたのです。人間キリスト、人間イエスといいますと、何か人情味があって、人間臭い親しみのあるイエス様像を思い浮かべられるかもしれませんが、そうではないと思います。実はイエス様が、まことの人であるのは、姿かたち、受肉したその存在、地上で歩んだその人生、それらが全く私たち人間と同じだということですが、一点だけ、わたしたち人間と一致できないことがありました。それは、イエス様が私たちと違って、一点の罪をも持たなかったということです。わたしたち人間は罪と共に生きておりますから、それ故、毎日その罪を悔い改めながら生きております。しかしイエス様には一点の罪もありません。ですから、人間イエスと言っても、罪のあるなしということに関しては、わたしたち人間と相いれないのです。それでも、イエス様は、わたしたちに合わせて、わたしたちの低きところにまで下ってくださって、人間キリストになられたのでした。

つまり、キリストは人間となって、わたしたちと同じ肉をまとって、御自分の神性、御自分が神様であることを**隠された**といってもよいかもしれません。一方の私たちは自分の罪を隠しながら生きていますが、イエス様は自分の神様性を隠しつつ、この世を歩まれたのでした。

　このように私たち人間とイエス様は**違う**のですが、お互い隠し持っているものは違うけれど、おもてに現れていることが同じなので、わたしたちはイエス様と親しく交わることが出来るのかも知れません。どういうことかと申しますと例えば、ガリラヤ湖を渡るイエス様と弟子たちが嵐に遭遇する有名な聖書箇所で、弟子たちは、嵐に中で、一人眠っておられたイエス様に対して「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」といって非難しますが、このやりとりには端的に私たち人間の罪とイエス様の神様性が現れています。イエス様にはすべてが分かっておられたので、安心して眠っていただけであり、何の罪もないのに、私たち人間は、この時自分の罪を顕わにして、それをイエス様に責任転嫁しているのでした。

また、十字架での死を予告するイエス様を、ペトロがいさめた時に、イエス様が叱って「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」と言われたのも同じようなことでしょう。

　このように幾分、ぎくしゃくしたイエス様とわたしたち人間とのやり取りですが、このようなやり取りを経て、イエス様とわたしたちとの交わりは深まっていくのだと思います。言葉を換えて言えば、人間イエスは、決して私たちの罪を見逃さず、親しく交わる人の内に必ず、罪の気づきと悔い改めをもたらしてくれるといってよいでしょう。

　では翻って、わたしたち人間の人間性を考えてみたいと思います。私が今回、人間の人間性、すなわち何か人情味があって、人間臭い親しみのある人物像として先ず思い浮かんだのは、寅さんのことです。あの男はつらいよシリーズで出て来る主人公ですがこの人間寅次郎のことを少し考えてみようと思います。今回男はつらいよを見てみまして思いましたのは、ここには、今や昔となった、**昭和の幸せ**が描かれているということです。その昭和の幸せを支えたのは、この映画によりますと、理想の家族像、柴又の門前町に拡がる聖なる空間、男女間の純愛、などだと思います。しかしこれらの幸せは、今では昔話となり、わたしたちはその幸せを懐かしむことしかできません。古き良き時代とか言ってその思い出に浸るしかないのです。今を生きるわたしたちが、つまりその時代の人々と同じように感じられる、**変わることのない**幸せがそこにあるわけではないのです。ノスタルジーというのはそういうことかも知れませんが、

実はノスタルジーという言葉自体、１７世紀後半に創られた言葉なのです。それまではノスタルジーという概念ははっきりとは認識されていなかったのです。この比較的新しいノスタルジーという概念も、人間キリストと共に眺めてみればその正体がはっきりしてきます。この映画には私たち人間の罪多き姿が描かれています。その最たる人が人間寅次郎です。人を平気でけなして、嫉妬深く、喧嘩ばかりしているその罪多き姿が描かれています。しかしよく見ていますと、その罪は寅さん一人に留まるものではありませんでした。寅さんはその罪を隠すのが非常に**下手な**人だったので、多くの場合、彼が矢面に立って非難の対象となったり、或いは注目の的となるのです。そして最後には寅さん自身が打ち砕かれて映画は終わります。このようこの寅さんシリーズも人間キリストと共に鑑賞しますと、私たち人間の罪に光が当てられます。そしてキリストは私たちの打ち砕かれ悔いる心を決しておろそかにはされないのです。

　では本日の聖書箇所を私たちは、人間キリストとともに見ていきたいと思います。私たちはそれぞれ一人残らず罪を抱えています。今日の聖書箇所はフィリピの教会の人たちにパウロが勧告をしているのですが、このように人に勧告をする場合には特に、罪なき人間キリストに照らしてもらいながらみていくのが大事です。パウロもそのことを十分にわきまえていたので、後半でキリストを賛美せざるをえなくなったのでしょう。

２節に「同じ思いとなり、同じ愛を抱き」とありますが、この「同じ」という語句は私たちが普段よく使う言葉なので、普段の意味合いで取りがちです。しかし、この「同じ」という語句のもとのギリシャ語の意味合いを調べますと、ずっと変わらない、不変のという意味合いなのです。どれくらいの間変わらないかというと、未来永劫、千代に八千代に変わらないということです。又、空間的に云えば、牢獄の中であろうと、フィリピの町中であろうと変わらないという意味です。つまりどんな時でもどこにいても同じ思いとなり、同じ愛に満たされるということです。このような愛に満たされれば、私たちは時代を超えて、昔と人たちを間近に迎えて喜び合うことが出来るでしょう。それは決してノスタルジーの世界ではないのです。又、パウロは「心を合わせ、思いを一つにしてわたしの喜びを満たして下さい」とあなた方に対して願っています。牢獄にいる者と、町にいる者とが、思いを一つにして喜び合えるというのはどういうことでしょうか。それもやはり時間空間を超えるずっと変わることのない思いと愛とに満たされるということです。

　そんな素晴らしい愛があるのでしょうか。それはあります。私たちが常に聞かされているキリストの愛がそれです。私たちはそのキリストの愛を聞かされるだけでなくこの身で味わいたいと思っています。しかしなかなか味わえないというジレンマがあると思います。どうしたらそれが味わえるのですか、と聞かれたら、それはあなた、イエスが命じられたように、あなたの神を愛しなさい、そして隣人を自分のように愛することですよとお答えすれば間違いではないでしょう。しかし、そのことはもう何回も聞かされましたよ、と言われるかもしれません。

　ですから今日はそのことを少し言葉を換えて提言いたしたいと思います。私たち人間は隣人と意見があったり、愛し合ってると感じられた時、その隣人と共にこの上ない喜びに満たされることでしょう。つまり同じ思いとなって、同じ愛に満たされたのです。しかしそのこの上ない喜びを私たち人間**だけ**でずっと保ち続けることが出来るでしょうか。そこにはどうしても人間キリストの登場が必要なのではないでしょうか。先ほど、ガリラヤ湖上の嵐の中で眠るイエス様を非難した弟子たちや、イエス様を叱ったペトロのことをお話しましたが、このように私たち人間は、神様の愛と言いながら、そのことを実際にはよくわかってはいないのです。そのような私たち人間が神様の愛に触れることのできる唯一の道は人間キリストを通してしかありません。人間キリストは神の姿を隠して私たちと同じ死すべきものとなられました。そして私たちの抱える罪を大目に見ながら、私たちが其の罪を悔い改めた時、私たちを許して下さいます。私たちは時に人間キリストと格闘しながらも、その間柄を深めていっています。そのような人間キリストとの格闘の中で、私たちは、へりくだらされ、キリストにひざまずいて、そうして時と場所を越えた本当に変わらない同じ思いと愛とに満たされるのです。ですから私たちは、常に、具体的なそれぞれの場所に人間キリストをお迎えして、いつも彼と共に歩んでまいりましょう。あなたが失望していようが、意気消沈していようが、或いは不安に思っていようが関係ありません、どうぞキリストを迎え入れてください。その時キリストの愛は向こうからあなたにやってきます。

お祈りいたします

天に居ます私たちの父なる神よ。この主日に私たち兄弟姉妹を御前に集めて下さり、御言葉を聴けます幸いに感謝いたします。

兄弟パウロは、獄中にあって、常にキリストと共にあり、喜びに満ちて、その喜びをフィリピの信徒たちに増し加えようとしました。

私たちも彼らと同じ聖霊に満たされ、同じ喜びに満たされますように。また今、多くの教会からお祝いの言葉が届けられていますが、その喜びをキリストと共に分かち合うことが出来ますように。

今地上で蔓延しています新型コロナウィルスに私たちが怯えることなく、いつも現臨されますキリストと共に平和のうちに歩んでいくことが出来ますように、私たちを慰め導いて下さい。

殊に東京にあります諸教会を覚えます。どうか信徒たちの信仰を守り、彼らがキリストと共に歩めるように知恵と力とをお与えください。又どのような時も彼らがあなたの喜びで満たされるようにして下さい。

父と聖霊と共に一体であって代々に生き支配されておられます救い主イエスキリストのみ名によって祈り願います。

アーメン